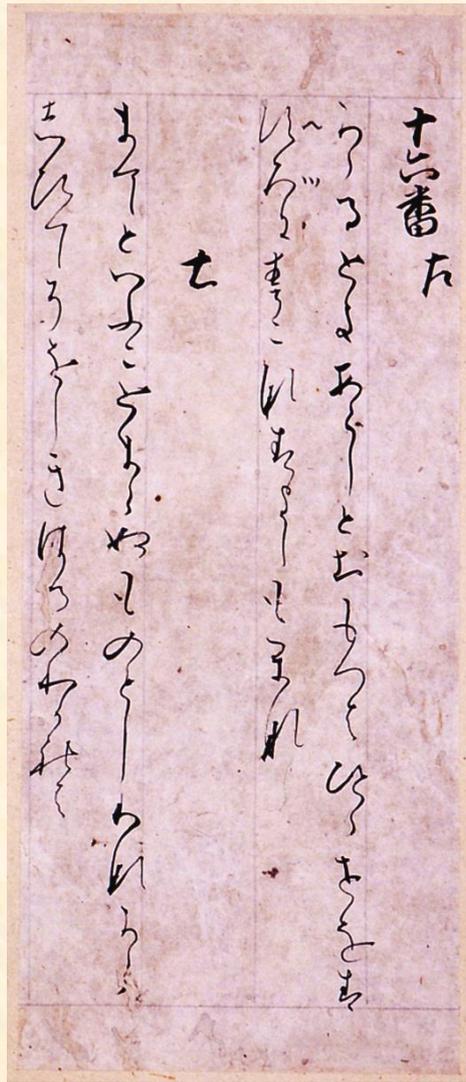


平安時代の歌合集から抜け落ちた雅歌

かんびょうおんとききさいのみやうたあわせだんかん はる

寛平御時后宮歌合断簡「春」



この断簡は、^{るいじゅうたあわせ}類聚歌合（国宝）から^{けつだつ}欠脱した、寛平御時后宮歌合「春」十六番の和歌が書かれたものです。筆者は、^{ふじわらのさだいえ}藤原定家の祖父である御子左俊忠とも、^{みなもとのとしより}源俊頼とも言われています。歌合とは歌人が集まって和歌を詠み、その^{ゆうれつ}優劣を競う^{もよお}催しものことです。平安時代の寛平5年（893）に、^{へいあん}宇多天皇の母であり光孝天皇の^{はんし}后であった斑子が主催した際に詠まれたものです。この歌合は、後の^{こきんわかしゅう}古今和歌集を作成する^{きうん}氣運を生み出しました。

市指定文化財：有形文化財（書跡）

指定年月日：昭和51年2月17日

所在地：木更津市太田 2-16-2 （木更津市郷土博物館金のすず）

所有者：木更津市

員数：1幅

公開・非公開の別：公開
